

目次

1. 本システムの提供ファイル	2
2. データベースエンジンの選択	3
3. リッチクライアントプログラムの特徴および注意事項	
(1) クライアント側に専用ソフトは不要	4
(2) フォームはすべて Magic で作成	4
(3) 色・フォントファイルはそのまま、キー割付も有効	4
(4) 印刷は ReportsMagic	5
(5) パッチタスクについて	5
(6) RM 互換(レコードメイン互換)は不可	5
(7) ファントムタスクは不可	5
(8) 遅延トランザクションモードを使用	6
(9) 使用できない関数がある	6
(10) オンラインタスクと動きが違う部分がある	7
(11) オンラインタスクのようなレコードロックの概念はない	7
(12) パフォーマンスに関する注意点	8
4. テクニック集	
(1) PDF 出力の方法	9
(2) ReportsMagic 出力の方法	10
(3) CSV 出力の方法	11
(4) 画面の拡張機能	12
(5) フォーム状態の維持	12
(6) カラムの並び替え	13
(7) カラムのソート	13
(8) カラムのサイズ変更	14
(9) ファイルのダウンロード	14
(10) ファイルのアップロード	15
(11) メール送信	15
(12) グラフ表示	16
5. 顧客情報入力プログラムの概要	18
6. プログラム解説	19
付録1. モデル一覧・テーブル一覧・プログラム一覧	
モデル一覧	23
テーブル一覧	27
プログラム一覧	29
付録2. ReportsMagic ファイル名一覧	32
付録3. モバイルプログラムについて	33

第1章 本システムの提供ファイル

本システムで提供されているファイルを、フォルダーごとに紹介します。

フォルダー名	ファイル名	内 容
C:\¥WitKokyaku31	WitKokyaku31.edp	本システムのプロジェクトファイル
C:\¥WitKokyaku31¥DAT	*.DAT のファイル	Pervasive 用データファイル(最初はサンプルデータが入っています) 顧客データ、接触データ、見積データ、商談データ、契約データなど
C:\¥WitKokyaku31¥ENV	act_wit.jp clr_wit.jp fnt_wit.jp prn_wit.jp	キーボード割付ファイル 色定義ファイル フォント定義ファイル プリンタ属性ファイル
C:\¥WitKokyaku31¥Exports	(空)	
C:\¥WitKokyaku31¥Images	*.png、*.jpg ファイル	ロゴ等のイメージファイル
C:\¥WitKokyaku31¥RM	*.rfr のファイル RMViewerActiveX.cab RMCompSec*.dll *.jpg	ReportsMagic 用フォームファイル ReportsMagic 用ビューワー(実行モジュール) " システム内で使用しているロゴイメージファイル
C:\¥WitKokyaku31¥Source ORACLE データ辞書フォルダー Pervasive データ辞書フォルダー SQLServer データ辞書フォルダー	*.xml のファイル Data*.xml のファイル Data*.xml のファイル Data*.xml のファイル	プログラム等のソースファイル ORACLE 用のデータソースファイル Pervasive 用のデータソースファイル SQLServer 用のデータソースファイル
C:\¥WitKokyaku31¥TMP DEMO フォルダー	(空) *.TXT のファイル	システムで使用する一時的なフォルダー デモデータの元となるテキストファイル

<その他のファイル>

ドキュメントとして、「インストールガイド／操作ガイド／開発者ガイド(本書)」があります。

第2章 データベースエンジンの選択

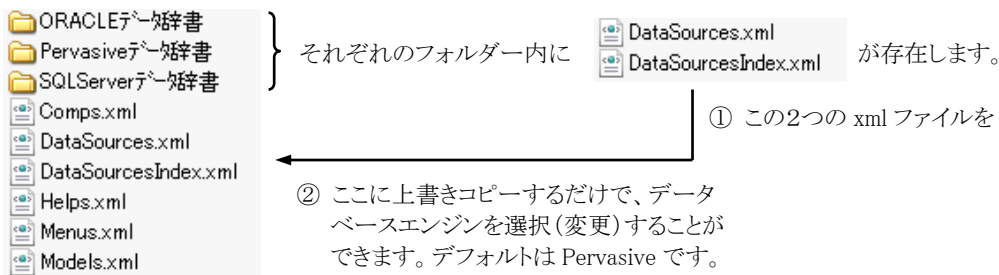
本システムで使用できるデータベースエンジンは以下の3種類です。

- Pervasive
- ORACLE
- MS-SQLServer

各データベースエンジンに対応したデータ辞書ファイルが「C:\¥WitKokyaku31¥Source」フォルダーの下にありますので、3種類の中から1つを選択し、そのフォルダー内にある2つのデータ辞書ファイルを「C:\¥WitKokyaku31¥Source」フォルダーに上書きコピーするだけで、データベースエンジンを自由に選択(変更)することができます。

- ※ デフォルトはPervasive になっていますので、Pervasive を使用する場合は特に何の作業も必要ありません。
- ※ データベースエンジンがどれであれ、プログラム自体はすべて共通です。

<C:\¥WitKokyaku31¥Source フォルダー内>



2つのデータ辞書をコピーすると、開発時のデータ辞書画面は下のようになります。

Pervasive のデータ辞書画面

#	名前	データベース名	データベース
1	--- マスタ		Default Database
2	KOM001_自社情報マスタ	¥WitKokDAT¥KOM001.DAT	Default Database
3	KOM002_番号マスタ	¥WitKokDAT¥KOM002.DAT	Default Database
4	KOM003_ユーザーマスタ	¥WitKokDAT¥KOM003.DAT	Default Database
5	KOM004_区分マスタ	¥WitKokDAT¥KOM004.DAT	Default Database
6	KOM005_商品区分マスタ	¥WitKokDAT¥KOM005.DAT	Default Database
7	KOM006_郵便番号マスタ	¥WitKokDAT¥KOM006.DAT	Default Database
8	KOM007_FA×文書H×マスタ	¥WitKokDAT¥KOM007.DAT	Default Database
9	KOM008_送り状案内文H×マスタ	¥WitKokDAT¥KOM008.DAT	Default Database
10	KOM009_商品マスタ	¥WitKokDAT¥KOM009.DAT	Default Database

ORACLE のデータ辞書画面

#	名前	データベース名	データベース
1	--- マスタ		Default Database
2	KOM001_自社情報マスタ	KOM001	ORAWitKOK
3	KOM002_番号マスタ	KOM002	ORAWitKOK
4	KOM003_ユーザーマスタ	KOM003	ORAWitKOK
5	KOM004_区分マスタ	KOM004	ORAWitKOK
6	KOM005_商品区分マスタ	KOM005	ORAWitKOK
7	KOM006_郵便番号マスタ	KOM006	ORAWitKOK
8	KOM007_FA×文書H×マスタ	KOM007	ORAWitKOK
9	KOM008_送り状案内文H×マスタ	KOM008	ORAWitKOK
10	KOM009_商品マスタ	KOM009	ORAWitKOK

MS-SQLServer のデータ辞書画面

#	名前	データベース名	データベース
1	--- マスタ		Default Database
2	KOM001_自社情報マスタ	KOM001	SQLWitKOK
3	KOM002_番号マスタ	KOM002	SQLWitKOK
4	KOM003_ユーザーマスタ	KOM003	SQLWitKOK
5	KOM004_区分マスタ	KOM004	SQLWitKOK
6	KOM005_商品区分マスタ	KOM005	SQLWitKOK
7	KOM006_郵便番号マスタ	KOM006	SQLWitKOK
8	KOM007_FA×文書H×マスタ	KOM007	SQLWitKOK
9	KOM008_送り状案内文H×マスタ	KOM008	SQLWitKOK
10	KOM009_商品マスタ	KOM009	SQLWitKOK

データ辞書はすべて異なりますが、プログラム辞書はすべて共通で使えます。